

新年の

ごあいさつ



剣淵町長 早坂 純夫



希望に満ちた新春を迎えられた町民の皆様にご挨拶申し上げます。

日頃からの町政に対する深いご理解とご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症により、日常生活に多大なご不便と感染防止へのご協力をいただいていることに対し、心から感謝を申し上げます。

昨年の天候推移は、冬は積雪量が例年より少なく、春先の融雪も順調に推移し春耕期の時き付けも進みましたが、遅霜による被害が若干ありましたが、時き直し等で大事には至りませんでした。

昨年5月の剣淵の風景を見てみますと、淡々と時き付けを行う農家のお姿を拝見することができました。

コロナ禍による喧噪をものともせず作業に打ち込む日常であり、これまでと変わりなく美しい風景をなしていました。

6月中旬までは、低温や日照不足による天候異常の兆候が始め、秋高が心配されていきましたところ、6月下旬から7月以降は、高温と少雨による気象の変化により水稻をはじめ大方の作物が前年を超える収量となりました。今年こそ天候が穏やかに推移することを願うものであります。

災害においては、台風の接近もあまりなく過ぎ去りましたが、災害と言っても過言でない新型コロナウイルス感染症による健康被害と経済の停滞を余儀なくされた昨年でした。

第30回の節目となる絵本の里大賞については、絵本の館の入館制限など感染対策を万全に行い無事開催することができました。町民の皆様の深いご理解があったことだと考え、感謝申し上げます。

11月に入り新型コロナウイルスの爆発的感染が札幌・旭川で発生し、町民の皆様にも自粛等の社会的生活制限をお願いしてきたところであり、各各種行事については、3密を

避けるため縮小又は中止をさせていただきますました。

国は、コロナ禍対策で明け暮れ、国家予算の2年分近くをつぎ込む事態となりました。地方自治体では、交付金を有効活用しての取り組みを進めるに至りました。本町においての各種コロナ禍対策におきましては、地方創生臨時交付金第1次及び第2次の交付金を用いて各種感染症予防対策を実施いたしました。広くは防災ととらえ、国土強靱化計画に基づく安全安心の確保に努めているところでもあります。

念願の、光回線の全町整備は、リモート学習、産業においてはIT農業への転換や各種情報の発信と時代を一変する環境を整えることになりました。

今、話題の言葉として5G回線とというのがあります。情報通信の可能性をさらに引き出すこの新技術は、高速で大量のデータ送受信ができます。これにより、自動運転や遠隔での作業、IT農業と言われる農業機械のコントロールや他の産業機械分野が大きく変わっていくことになります。

中国の台頭と新政権のアメリカが、トランプ氏の政策をどのように変え

ていくのかも日本にとりまして重要な案件であります。農産物の貿易攻勢をどうとらえ国内農業をガードするかが課題であります。直接的に影響を受けるのは基幹産業である農業であることから関係団体と共にしっかりと対応していかなければと考えています。

いずれにいたしましても、コロナ禍後の社会構造の変化を読むことから、今年が始まると考えています。

また、働き方の改革と多様化が進み、今までのライフスタイルからの変化が顕著に表れてきます。国際的に、先進国としての協調性を図る意味合いからも労働時間の削減や働く環境の多様化が進められてきます。

地方自治体におきましては、行政改革であります。新内閣になり、押印の廃止という日本の文化が変わりそうな行政改革ができました。これについては、具体的な方向がまだではありませんが、一定の基準に基づいて進めていくことになると思います。

次に、自治体財政が厳しくなっているということがあります。幸いに我が町は、財政健全化比率等に問題がある数値ではありませんが、今までの考え方で予算を組むことができ

なくなっている状況であります。

このままの状態では、基金を取り崩すことを進めれば10年で底をつく見通しで、従来からの補助金や負担金、インフラ等を見直し財政改革を進めていくこととなります。

まちづくりの基本は、町民が主役となり自主性のある社会参加が不可欠であります。町民の皆様がまちづくりに対する姿勢にあらためて敬意を表するしだいでありませぬ。

社会変化に対応するため、町民の皆様幅広いご意見を頂戴し、本年も活力ある絵本の里けんぶちのまちづくりを進めていかなければと考えています。

今年一年、町民の皆様が健康にて、さらに五穀豊穡の秋を迎えられますよう、ご祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

剣淵町議会議長 高橋 一博



町民の皆様、明けましておめでとつごぞいます。皆様には2021年

の新春をお元気で迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日頃より町政の推進に特段のご理解とご協力を賜り、議会を代表して厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新語・流行語で「3密」などの新型コロナウイルス感染症に関する言葉が多かったように、新型コロナウイルスに翻弄された1年でありました。この未知のウイルスは全世界に広まり、多くの人の命が失われたばかりでなく、経済にも大きな影響を与えました。

日本国内においてもいまだに医療用など多方面に大きな影響が出ています。政府は、対応すべく様々な施策を進めていますが、一日でも早い収束に向け、難しい対応に迫られています。こうした中、内閣では安倍総理から菅総理に代わりました。7年8か月ぶりの総理交代となります。また、アメリカ合衆国でも大統領が1月下旬に交代します。国内外ともに厳しく難しい時期ではありますが、地方の活性化に向けて、積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

昨年は融雪もほぼ順調に進み、は種・移植ともに適期に終了しました。

5月下旬から6月上旬の雨不足により金時豆等の発芽ムラがありました。が、農家の皆様の適切な肥培管理により、水稲・畑作全般は平年を上回る収量でした。しかし、野菜については霜や高温・干ばつの影響を受け、収量減になったことは誠に残念であります。本年こそ農作物全般により年となることを期待するところです。

また、道内には大きな台風の影響は辛うじてありませんでしたが、本州では昨年豪雨や台風などにより尊い人命が失われ、更に農作物等の壊滅的被害が発生しております。個人の力では防ぎきれない未曾有の大災害に対し、本町においてもこれまで以上に防災意識を高めるとともに、できるだけの備えを町全体で取組んでいかなければならないと思えます。

さて、昨年の本町の農業施策については、継続事業として中山間地域等直接支払交付金事業や多面的機能支払対策事業などは定着しており、また、輪作体系では重要な馬鈴しょの生産振興対策事業の強化、近年の集中豪雨や長雨に対する農地排水機能向上対策事業の推進など、農業者の負担軽減等に効果を上げています。更にけんぶち農業ブランド化推進事業は、本町のPRとブラ

ンド力の向上に期待をするところとす。

商工業振興対策として定着しています購買促進プレミアム商品券事業は、町内商店街の活性化のため、これからも力を入れなければなりません。本町の観光拠点であるレークサイド桜岡と道の駅は厳しい経営状況が続いておりますが、町民の保養や雇用の確保の面からも重要であり、町民の皆様には特段のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本町では多くの個人・団体が活躍しております。町の発展は行政主導ではなく、民間の活力が最も重要であります。これからも本町で活躍している皆様、行政と一体となって支援をしていく考えであります。

本年は、町長・議会議員の改選の年であり、残された任期も少なくなりましたが、最後まで町民の皆様の期待に応えるべく全力を傾ける決意でございますので、より一層のご理解とご協力をお願いするところです。結びに、本年も災害のない豊穡の年であることを願い、更に町民皆様にとりまして健康で希望に満ちた年でありまして、心からお祈り申し上げます。